

雲南市地域自主組織連絡協議会と市長との意見交換会

【日時】

令和5年6月22日（木）16:00～17:15

【会場】

下熊谷交流センター

【参加者数】12人

■意見交換

ご意見) 防災について。3月に原発の避難先について周知あった。市内で29,000人程度が該当する。山陽方面への避難先設定されているが、つながりのない場所への避難を市民は不安に思っている。

地域自主組織から市役所宛のメールアドレス(@bs.kkm.ne.jp)がブロックされる不具合があった。現在は届くようになっているが災害時に危険。市役所のアドレスを自主組織に配布してほしい。市の職員や地域間のやり取りにしか使わないことを限定して。

市長) 原発のパンフレットは30キロ圏外の方にも配布している。原子力災害が発生した場合の行動をイメージしてもらうもの。今後出前講座などで啓発をする。去年は、広域訓練で加茂町から三次市へ避難してもらった。今年度も実施する。こうした訓練により地域間の連携を時間はかかるが進めていく必要あり。メールの件「unnan.jp」は国が運用しているもの。LGWAN系のアドレスは使っていただくことはできない。自主組織に提供は難しい。地域自主組織とのメールのやり取りは重要であり持ち帰り確認検討する。

ご意見) 市報5月号に市職員行政組織体制の配布があったが、市のHPに掲載の市報には組織体制の掲載がない。個人情報保護の意味でHPには載せていないとのことだが、市立病院の組織体制は載っており取り扱いが異なる。県内8市でも職員名簿載せていないところが多い。町村のHPには組織体制表が載っている。また、会計年度任用職員と記載してあるが、市の職員という立場は変わらないので記載する必要があるのか。地域自主組織の会長の名前はHPに載っており個人情報保護というなら市職員組織体制も掲載すべきではないか。取り扱いの統一を。

市長) 少なくとも役職のある職員の掲載はすべきと思うが、配慮すべき職員の事もある。検討したい。

ご意見) 人口減少問題と地域の活性化について。ある自治会では高齢化により急傾斜地の草刈りできないとのこと。日登では転入者が近年22組84人、平均年齢26歳程度。家族構成も「夫婦と子連れ」や「夫婦」などが多い。学校も27人が移住者の子ども。地区の平均年齢2.1歳減少しており地域が若返っている。移住者のきっかけとしては、「寺領小学校の食と農の特色ある授業」が魅力とのこと。移住について地域に期待することは。

市長) 東京からの移住先はほとんど関東周辺である。全員にきてもらう必要はなく雲南市の良さがわかる方、例えば0.01%に来てもらえばよい。便利さで戦うのではなく自然や環境の良さを伝えること。地域のよさをアピールすることが必要と考える。

ご意見) 市道の定期的点検を行い補修対応して欲しい。草刈りについて、島根県は県道についてハートフルロードの仕組みがあり自治会と契約し取り組んでいる。市もハートフルロードのような仕組みに基づいて実施すべき。

市 長) 市道はたくさんあり管理が行き届かないところもあるが市道修繕についてはしっかり取り組んでいく。修繕個所の連絡についてはパトレポしまねも活用してほしい。地域にも協力頂きたい。今年度自治会間の草刈りはシルバー人材センターに委託出来るよう補助制度を見直した。ハートフルロードとの違いも確認し取り組みたい。

ご意見) 人口減少対策が最大の課題。人口対策に対する市長のビジョンを伺いたい。人が集まる状況になく流出に歯止めがかからない。魅力あるまちづくりと言っているが抜本的な対策が必要。計画を立て実行はするが反省と検証がない。第3次総合計画を策定するとの事だが計画ばかり立てないで、実行性のあることを実施すべき。例えばだが大学を誘致するなど。これらの課題に対しこれまで地域が変革できなかったのは団塊の世代が若い世代の意見を取り入れなかった為。強い気持ちで人口減少対策に取り組むべき。

市 長) 一気に社会の流れを変えることは難しいが、できることを組み合わせて取り組んでいきたい。戦後70年の流れを変えるには人の価値観を変えること。小さなことからコツコツと取り組んでいきたい。

ご意見) 合併当初から人口は今後23千人程度までに減ると考える。国からのますます交付税は減ってくるだろう。市内には指定管理施設が多すぎるので思い切って削減すべき。

小中一貫学園化構想は地域によって事情が異なる。大東は小学校が複数ある。学校教育の一貫した教育の方針が見えないところがある。

市 長) 行財政改革を進めるには地域の方のコンセンサスを得ながら行いたい。一貫化構想は学校統合ではなく、小中が同じ教育方針で進めることであり高校までの一貫したキャリア教育を進めたい。

ご意見) 災害復旧への取り組みに感謝している。避難所運営や災害時の対応について総合センターとも協議しているが、地区内で複数の指定避難所がある。交流センターへの避難を想定しているが、隣接の小学校体育館の場合鍵は預かることが出来ない。開設場所は市が決定するが、対応の手順を具体的に考える必要がある。災害時状況は様々であり人命第一に具体的に検討し準備をしておく必要がある。行政は現場の声を大事に寄り添った対応をしてほしい。

市 長) 防災は100%の対応は難しく発生する状況に対応出来るよう、柔軟に普段から備えておくことが大切である。

ご意見) 第3次雲南市総合計画策定について、人口減少高齢化の中で将来に希望ある第3次雲南市総合計画を策定するのは難しいと思うが、地域の資源を生かして策定して頂きたい。中野の地区計画も同様に考え策定し取り組みたい。

永井隆記念館は全国にもPRできる施設。ウクライナ情勢の事もあり積極的に全国や世界へ平和をPRすべき。市内でも知らない人もいる。第3次総合計画の中にも盛り込んでほしい。生い立ちの家は屋根を修復したがトイレや電気設備がない。整備しPRに使ってほしい。

市 長) 雲南市総合計画は大きな構想なのでその次の基本計画に盛り込むのがよいのではないかとPRして行くことは重要である。

ご意見) 吉田町は課題が多い。人口減少大きく高齢化率は50%以上で5年先の農業も難しい。営農法人もあるが、法人自体も循環しなくなっている。法人化したら若い人はお任せになり限られた人の農業になって、意識や関心が下がる。法人の後継者がいなくなり、法人同士の連携も考えられるがそれぞれの法人も状況は同じ。しかし地域を守らないといけないと頑張っているところだが、担い手がない。

地域自主組織は5人の職員体制。職員確保が難しく今回は何とか確保。報酬、賃金が少ない。通勤手当に代わるものを考えないといけない。事業もやっていく必要がある。財源確保したいが収入源もない。

市 長) 農業法人は雇用できる体制をつくることだが、法人化だけでは難しい。法人と地域、農業者といかに非農家を巻き込むかなどもある。今年度報酬部分、交付金少し上げたが継続して対応していきたい。

ご意見) 現実には非常に厳しい。民谷から出雲、松江には通えない。吉田にはインターチェンジが2カ所あるので高速の活用も検討してほしい。若い世代を残すには企業誘致が必要。

市 長) 特に状況の厳しい地域は、積極的に特定の企業等へアプローチしていく必要がある。

ご意見) 掛合道の駅の再生プランを策定されたとの事だが進捗状況の報告がない。掛合体育館は耐震性がないとの事で使用出来なくなり、掛合分校の生徒が使用出来なくなったので早期に対応を願いたい。

市 長) 道の駅については一定のハード整備も必要。今年度から掛合と木次で進めていく。木次は平日、掛合は通過交通というよりも目的としての場。体育館は大東体育文化センターと木次体育館、掛合体育館の3館が使用出来ない状況が有る。掛合体育館は掛合分校生徒が使っているので急ピッチで検討する。

ご意見) 第3次雲南市総合計画策定との事だが第1次・2次の振り返りを踏まえないといけない。市職員全体がどう考えているのか聞きたい。波多の地区計画は5つの項目に絞っている。地域の人が具体的に分かるような内容に。やることを絞ることも必要。

掛合体育館の使用禁止は町民からの不満が大きい。前から危険性があったが、急に使用中止に。市民不在の考え方。「釣り天井の落下対策を行った後に」などとすればよいが、担当者が危機管理的な意識をもっていないと思う。子ども達は不自由な思いをしている。まずやってみて、次の方法を考えること。市民の立場となってどう考えるか、市職員は考えてほしい。

市 長) 総合計画の振り返りは取り組んでいく。掛合体育館や木次体育館は、耐震強度不足の使用禁止ではなく、学校の判断で使わないことになった。早急に対策をしていく考えだが財源面も検討する必要あり。市民に寄り添う姿勢は大切である。